

「数字」は、社長の心を実演する名優です パーパス経営から「SDGs」を考えよう!!

「子は親の心を実演する名優である」。倫理の万人幸福の栞、第6にある。この文を会社におきかえてみると、「数字は社長の心を実演する名優である」とも言えるのです。会社にとって数字は重要です。毎日毎日、数字は生きている。「数字と心」は一体となっているのです。

更に、倫理の中の第6に「子供が手に負えぬ、悪くて困るという時、その原因はことごとく両親にあると知って、自分を改め、夫婦が明朗愛和に帰る時、子供たちには指一本ふれず、一言も言わなくとも、りっぱに直ってしまう」と。これも「数字のまずさ」を、その原因は経営者である「社長」にあると知って、社長が気づかされ、改めることで、会社が良くなり、「数字が改善された」ことになるのです。

また、「子供自身に、あらわれた病気でさえも、例外なく、親の生活の不自然さが反映したまでである。」これも「数字が悪くなった」社長の不自然さが現れたのです。倫理の「万人幸福の栞」を学んでいると、数字の姿が現れてくるとも多いのです。まさに「数字は社長の心を実現する名優である」ことがわかってくるものです。

会計事務所にとって「数字」は大事なことです。この生きている数字を生かしましょう。「月次会計、決算、申告、経営計画、相続、M&A」等々。「数字」なくして何事も、経営も、会計も、不可能です。

松下先生の「世間の学校」2月号“(4)言葉は語る”をよく見て下さい。最近、いろいろなところで「パーパス経営」ということが注目されています。「パーパス」とは、目的、効果、意思の力、適切とか、いろいろな意味を持っているのです。

経営的には、このパーパスというものは「企業の存在意義」、いわゆる「その会社は何のためにあるのか」という観点から考えられているんですね。このような「お宅の会社はどんなことをするためにあるんですか」ということで、「パーパス経営」が新しいこれからの経営モデルになるんじゃないか、というふうにいわれております。世界的にも注目されております。

パーパス経営には、こんな背景があります。DX（デジタルトランスフォーメーション）のほか、サステナビリティ（持続可能性）や多様性の重視、新型コロナウイルス禍など変化が激しく、答えがない時代を迎えている。その中で、自社の判断軸、考え方をパーパスとして打ち出すのが、ますます重要になっているのです。

そこで、会計事務所の「SDGs」を考えてみよう！

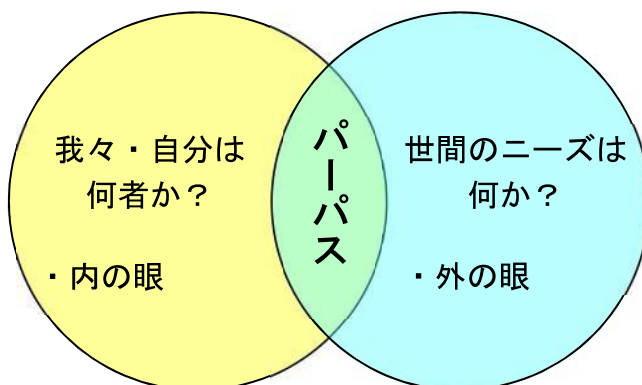
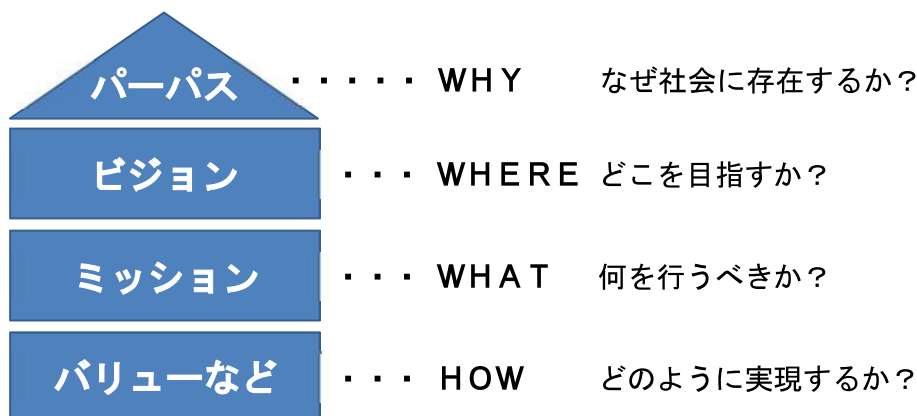
私にもできる「SDGs」。「自分のこと」として考えよう！「SDGs」の中で自分に何ができるだろうか？と考えると、基本になるのは自分なんですね。

「みんなでゴールへ」－ SDGs が掲げる最も大切な価値の一つが、「誰も取り残されない」こと。SDGs に興味がある人も無い人も、「生活に必死でそれどころじゃないんだよ」という人も、誰も取り残されることがないように。1 人より 2 人、2 人より 3 人。まずは「SDGs ってどう思う？」と身近な人を巻き込んで、みんなでゴールに近付きたい。

「SDGs」は税理士先生にも益々広がっています。決算診断は身近な経営者支援です。「黒字企業、黒字決算」で適正な納税を！これは当たり前である。しかし、会計事務所の顧問先を見ると、70%が赤字企業です。お客様としての大事な顧問先です。この赤字企業を考える！「赤字企業の会社を良くする。黒字企業にしよう」と、力を入れることも大事かと思うのです。

社長とのコミュニケーションが重要です。諸々の問題や課題を解決するのが「決算診断」です。

パーパスの位置付けと定義



- ・ 会計事務所を考える
- ・ お客様・顧問先を考える
- ・ 「三方よし」で必ずよくなる